

【5】 実践事例

—— 授業づくり ——

〔1〕 中学部の授業づくりについて

中学部のコミュニケーションのねらいにせまるための授業づくりの観点を次のように設定し、実践した。

(1) 単元や題材の設定及びその配置

- 目標や内容が、繰り返しや発展で積み上げられ、確かな力となる単元や題材の設定及びその配置を工夫する。
- 生徒の思いや考えが吸い上げられ、コミュニケーションを豊富に展開できる単元や題材を設定する。
- 年間を通して、学級・学部外、さらに校外の人々とのコミュニケーションの機会が持てる単元構成にする。

(2) 指導者の関わり方

- 指導者は、まず生徒の活動の様子を見守り、生徒の意図や思いを理解した上で、適切に学習活動に組み込み展開していく。
- 指導者も生徒の仲間のひとりとして、一緒に楽しんで活動する。
- 互いが関わり合おうとするあたたかく楽しい雰囲気作りをする。

(3) 個を生かす指導の工夫

- 集団としての良さを大切にしながら、個を生かせる多様なグループ編成の工夫をする。
 - ・ 学級（学年）単位
 - ・ 学級を解いた縦割り
 - ・ 学習課題別
- 全体、グループの課題に向かいながらも、個に応じた適切な課題の設定をする。
- 個々の興味・関心を持続させ、豊かなやりとりのできる場面設定や、個に応じた教材教具の工夫に努める。

(4) 家庭との連携

- 学校での学習が家庭でも話題にされ、次の活動への意欲につながるように、学校での様子を絶えず家庭へ知らせる。
- 事前学習や準備を家庭で取り組ませ、それを授業に生かし、学習したことを家庭でも活用し生きた力としていく。

以上の観点を明確にしたことで、授業づくりの取り組みの方向づけができ、授業研究の際の視点も定まって生きた。(1)～(3)に挙げた項目は、各学部に通ずるものであり、(4)の家庭との連携は、社会化を図っていく中学部にとり欠かすことのできないものだと考え設定した。

次に、授業づくりの具体的な実践例を、「生活単元学習」「課題別学習」「日常生活の指導」の実践、そして「家庭との連携」について述べる。